旅行会社様用　災害遺構「定点」団体販売要綱

雲仙普賢岳 火砕流(1991.5 月)

(一社)島原半島観光連盟

★　定点とは・・・　１９９０年１１月より始まった雲仙普賢岳噴火災害取材に、報道関係者が土石流や火砕流の撮影の拠点に定めていた場所で、１９９１年６月３日に発生した大火災流により、報道関係者や消防団員、タクシー運転手、警察官など４３名が犠牲になりました。今年、災害から３０年を迎えるのを機に、犠牲者遺族の葛藤もありましたが、地元の関係者有志により定点周辺が整備され、埋もれていた報道関係者の被災車両が掘り起こされて展示されました。併せて鎮魂のモニュメントも新たに設置されています。

● 旅行会社(1～3 種)の取扱う募集型企画旅行・受注型企画旅行・手配旅行で、「定点」を入れたコース部分をユニット販売します(修旅等の教育旅行は別途受付)。
定点周辺は、国土交通省により立入規制区域に指定され、通常は施錠されており、国土交通省への事前の申請・許可・届出等がないと立ち入ることはできません。この手続きも島原半島観光連盟が代行して行います。

● **基本条件**

①がまだすドーム(雲仙岳災害記念館)にて事前学習(館内観覧)を行い、定点入域の際は、島原半島ジオパーク協議会認定のジオガイドがバスに同乗し、現地も案内をいたします。また、安全管理を行う為に補助員も１名以上同行します(バスには同乗せずに、公用車にて同行)。
②定点周辺見学後は、がまだすドームまで一旦戻り、ジオガイドを降車させてください。
③団体の利用車両は、営業車(緑№)の貸切バスのみとします。レンタカー、自家用バス利用では受付できませんのでご注意ください。

● **コース**

Ａ、Ｂの２種類です。希望のコースを、作成する行程の中に組み込んでください。内容の一部変更・省略はできません。
全体の所要時間の関係上、がまだすドームでの見学開始は、午前　９：００～１０：００、午後１３：００～１４：００の間に設定してください。それ以外の時間帯は対応できません。

・**Ａコース**(所要約２時間３０分)
がまだすドーム(１時間観覧) ＝＝ 砂防ダム展望所 ＝＝ 定点周辺(三角錐・モニュメント・被災車両) ＝＝ 北上木場農業研修所跡 ＝＝ がまだすドーム(ジオガイド降車)

・**Ｂコース**(所要約３時間)
がまだすドーム(１時間観覧) ＝＝ 砂防ダム展望所 ＝＝ 定点周辺(三角錐・モニュメント・被災車両) … 柿の木坂 … 北上木場農業研修所跡 ＝＝ がまだすドーム(ジオガイド降車)

● **申込受付について**

・予約受付は、令和３年１０月以降の日程で、希望日の６ヶ月前より受付けます。希望日の１４日前までが申し込み締切日です。
・一般の方からの直接の申込や料金照会には応じていません。旅行会社からの申込のみ受付け

ますので、別紙申込書に必要事項を記載して、ＦＡＸ又はメールでお申し込みください。
国土交通省や県の砂防ダム周辺工事予定状況及びジオガイドのスケジュール等を確認してご回答いたします（回答まで休日を除き２～３日ほど要します）。

● **受付人員と料金**

・バスの台数は２台まで。最少受付人員１５名、最大７５名までとなります。但し１０～１４名の場合は、１５名分の料金をお支払いいただけば対応可能です（１０名未満は対応不可）。３台以上又は７６名以上の場合は、午前と午後の２班に分けるなどして受け入れ可能なこともありますのでご相談ください。

・安全管理上、ジオガイド１名に対し最大２５名迄の対応となります。よって２６～５０名迄はガイド２名、５１～７５名までは、ガイド３名の同行になります。

・２５名以下（又は５０名以下）で申込された団体が、当日２６名以上（又は５１名以上）であった場合は、超えた人員に対しては対応できません（がまだすドーム待機）。

・人数に適応したガイドが手配できない場合は、受付できません。予約後に人員増でガイドを増やすことになっても、手配できない場合は、前の上限人員までの対応になります。

・無賃扱は、添乗員、乗務員、未就学児です。

Ａコース料金

人員	大人料金（一人当）	中高生料金（一人当）	小学生料金（一人当）
１５～１９名（ガイド１名）	[redacted]		
２０～２５名（ガイド１名）			
２６～３０名（ガイド２名）			
３１～３５名（ガイド２名）			
３６～４０名（ガイド２名）			
４０～５０名（ガイド２名）			
５１～７５名（ガイド３名）			

Ｂコース料金

人員	大人料金（一人当）	中高生料金（一人当）	小学生料金（一人当）
１５～１９名（ガイド１名）	[redacted]		
２０～２５名（ガイド１名）			
２６～３０名（ガイド２名）			
３１～３５名（ガイド２名）			
３６～４０名（ガイド２名）			
４０～５０名（ガイド２名）			
５１～７５名（ガイド３名）			

● **手仕舞日**（催行の有無確定日）　※当日が土・日・祝日の場合は、その前の平日に繰上げる

・受注型企画旅行、手配旅行　　希望日の１４日前
・１泊以上の募集型企画旅行　　希望日の１４日前
・日帰りの募集型企画旅行　　希望日の１０日前

各日までに催行の有無と、有の場合は当日現在の人員をお知らせください

● 観光スポットについて

・がまだすドーム　…　雲仙普賢岳は１９９０年１１月１７日に１９８年ぶりに噴火し、水無川では土石流が発生しました。また、火砕流が頻発し、火山灰等の堆積物により土石流の発生しやすい状態であった水無川から溢れ出た土砂によって大きな被害をうけました。

　その土石流が海を埋めてできた新しい陸地に建設されたのが、火山のすべてを体験できる日本で初めての体験型火山ミュージアム「雲仙岳災害記念館」です。愛称「がまだすドーム」といい、がまだすとは島原地方の方言で「がんばる」という意味です。１９９６年の噴火終息宣言まで、この地で何が起き、何が残ったのか、自然の驚異と災害の教訓を風化させることなく正確に後世へ残すためにつくられました。

・砂防ダム展望所 …　国土交通省の雲仙復興事務所により、水無川上流域では、砂防えん堤や導流堤による、島原市及び南島原市への土石流氾濫を防止するための事業を行っています。水無川上流は噴火災害による影響を最も強く受けた場所で、火砕流堆積物が約１億７千万m^3も堆積しており、各支渓の地形が大きく変貌しました。危険な箇所での工事のため、国内で最初の無人化施工による砂防えん堤の建設を実施しました。展望所からは、砂防えん堤（ダム）の全容を見渡すことができます。

・定点（三角錐）…　白い三角錐は、災害から１０年後の２００１年５月、土砂に埋もれた定点の場所を示すために島原市が設置しました。木製で風化が進み、２０１１年に一度作り直され、現在は３代目です。

・モニュメント、被災車両 … 地元の安中地区町内会連絡協議会が、亡くなった人たちの鎮魂とともに、災害遺構として噴火災害の教訓を後世に伝える場をつくろうと整備をしました。整備面積は約３，０００㎡。定点から約２０ｍの距離に野ざらしのまま残されていた取材車両１台と、定点から約７０ｍ離れた位置で火山灰に埋もれていたのを掘り出したタクシー２台の被災車両３台を台座に据え付け、既に整備済みの別の取材車両１台の近くに展示しており、敷地内の石碑には「雲仙普賢岳の災害教訓を未来に活かすことを誓う」と刻まれています。石造りモニュメント（高さ約２ｍ、幅約１．５ｍ、重さ約３．５ｔ）は、島原半島産の安山岩を真ん中から割る加工を施し、天に向かって合掌しているように見えるデザイン。下部に挟み込んだ球状の花こう岩の下には、犠牲者の数と同じ４３個の那智石を置いています。

・柿の木坂（Ｂコースのみ）… 被災前の生活道路で、道路沿いにあった家々には柿の木が植えられていました。家屋は焼失しましたが、度重なる火砕流に耐えた柿の木４本が現存しています。

・北上木場農業研修所跡 … 被災当時，地元消防団の災害警戒の拠点として使用され，また多くの団員が殉職した場所です。火砕流にのみ込まれた跡地では，土砂に埋もれた消防車や遺品の双眼鏡などが見つかるなど，悲劇を風化させず後世に残したいとの住民の思いから，消防車の風化防止策を望む声が高まり，島原市により恒久的な保存をされることとなりました。「北上木場農業研修所跡」と刻まれた石碑には，消防団員１２名，巡査２名の名前が刻まれ，石垣や建物の基礎部分，火砕流に埋もれた消防車，同研修所で使われていた火災を知らせる半鐘などが火山災害の恐ろしさを伝える災害遺構として保存されています。

● **諸注意事項**

・禁止行為　①　飲酒状態での定点周辺入域
②　定点周辺での喫煙、食事(菓子類を含む)、飲酒（水分補給を除く）

・注意点　定点周辺について
①　現地はバリアフリーではありません。車椅子等利用の障害者には不向きです。
②　トイレがありません。事前にがまだすドーム出発時にお済ませください。
Ａコースで約９０分、Ｂコースで約１２０分行くことができません。
見学終了後、がまだすドーム到着時は、駐車場付近にトイレがあります。
③　日影がないので、暑い時期は日光対策と水分補給の準備をお願いします。
④　野生動物(イノシシ、サル等)が出現する場合がありますのでご注意下さい。
⑤　見学中、天候が急変して、周辺に異常がある時は、安全管理上見学を途中で中止する場合があります。なお、この場合料金の払い戻しはできませんのでご了承下さい。
⑥　ゴミはお持ち帰りください

その他
①　コロナ感染症対策を十分に施してご来訪ください。
②　砂防ダムは、現在も工事中です。国土交通省による定点周辺での工事予定が入っている場合はお受けできません。また、予約を受注していても、緊急に工事の連絡が入った場合は見学をお断りすることがあります。
③　ガイドとは別に同行する補助員は、公用車にて先導し、規制区域ゲートの開錠及び緊急時の対応を行います。
④　このコース受付では、修旅を含む教育旅行は除きます。教育旅行での定点入域をご希望の場合は、島原半島観光連盟　担当：鬼塚までご連絡をお願いします(プログラム内容や料金形態が異なります)。
⑤　旅行会社や利用するバス会社の下見も受付けます。料金は無料です。

【お申込み・お問い合わせ】
一般社団法人　島原半島観光連盟　　担当：中尾　武志　　営業時間　8:30～17:15(平日のみ)
TEL.0957-62-0655　　FAX.0957-62-0680　　Mail: nakao@shimakanren.com

がまだすドームから望む現在の雲仙普賢岳(平成新山)

定点跡を示す三角錐

新たに設置された鎮魂のモニュメント

当時マスコミが利用し、大火砕流で被災した車両（今年 30 年ぶりに火山灰の中から掘り出されたもの）
火砕流の威力により約 70m 吹き飛ばされていた　　合計４台を展示

大火砕流により焼失した北上木場農業研修所跡　　大火砕流で被災した消防車とパトカーの残骸を保存
（当時、地元消防団の災害警戒の拠点として使用され，12 名の団員が殉職した）

定点観光は、地元でも注目されており、マスコミの取材も多い

大火砕流の熱風を浴びた電柱とパイプ

柿の木坂上り入口（当時の生活道路）

定点付近の住居跡と柿の木坂への道（奥側）

砂防ダム展望所（入域規制区域外）

砂防ダムと平成新山や、海側は熊本県の山々と有明海、右手は眉山と、四方の眺めが良い場所です

展望所からの砂防ダムと平成新山

農業研修所跡から見えるスリット式の砂防ダム

がまだすドーム（雲仙岳災害記念館）

館内では、1991 年 6 月 3 日の大火砕流で犠牲になる直前までＴＶカメラマンにより撮影されていた実写映像が上映されています（エントランスホールにて）。

● このコースと合わせて見物したい被災関連施設（参考）

道の駅みずなし本陣内 土石流被災家屋保存公園

土石流災害で被害に遭った家屋１１棟を後世に伝える為、保存・公開している施設です。

旧大野木場小学校・砂防みらい館

大火砕流により小学校は全焼。自然災害のすさまじさを継承する火砕流遺構のひとつとして保存されています。砂防みらい館も併設されており、写真・パネル等による災害の状況・復興の様子などが見学できます。

平成新山ネイチャーセンター　　センターからの平成新山の眺め

平成新山をとても間近で観察できるとともに、噴火災害によって荒廃した垂木（たるき）台地の自然環境の回復の様子を直接観察し、学べる自然観察・学習施設です。